



# メリハリのある音声表現で伝える英語プレゼン（スライド資料）

大和, 知史

---

**(Citation)**

これから英語で研究発表を行う若手研究者のための学術英語スキルアップセミナー, 2019:1-75

**(Issue Date)**

2020-02-07

**(Resource Type)**

conference object

**(Version)**

Version of Record

**(URL)**

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90006753>



これから英語で研究発表を行う若手研究者のための  
学術英語スキルアップセミナー

2020年2月7日（金）

於: 瀧川記念学術交流会館 2階大会議室

# メリハリのある音声表現で伝える 英語プレゼン

神戸大学 大学教育推進機構  
国際コミュニケーションセンター  
大和 知史（やまとかずひと）

[yamato@port.kobe-u.ac.jp](mailto:yamato@port.kobe-u.ac.jp)

# 確認

- お手元の配布資料をご確認下さい。
- 大和担当分
  1. 配布資料 1部
  2. 参考資料 1部 (Wallwork (2016), 野口・幸重 (2007) 表現集)

## acknowledgment

- 本ワークショップの内容は、JSPS科研費26381197と17K04778の助成を受けた研究（共同研究者 磯田貴道@立命館大）を基にしています。

# 0. はじめに の前に

- 自己紹介にあるように、専門分野は、英語教育で、その中でも音声指導・発音指導になります。
- ですので、自分の専門分野の側面からどのようなことができるのか、普段英語を教えている中でどういうことをやっているのか、という形でお話できればと思います。

# 0. 本ワークショップで伝えたいこと

- 今回のワークショップを通じて、参加者の皆さんに、伝えたいことは次の通りです。
- まず、想定する英語プレゼンの方式は、「**発表原稿を事前に準備して、それを読む方式**」です。
- その際、「**棒読みにならずに**」・「**相手に内容をきちんと伝える**」ために、「**メリハリをつけて読むと英語らしく響くこと**」を理解し、練習します。
- また、「**普段できる練習方法は何か**」を紹介します。
- 対話を通じて**Q&Aの対処についても練習**できることを目指します。

# 0. 本ワークショップで伝えたいこと

- そんな目的を達成するために、本日は、以下の流れでお話ししたいと思います。

1.はじめに

2.メリハリのある音声表現のために：プロ  
ソディ学習の3つの原則

3.ではご自身でやってみよう！

4.質疑も入れてやってみよう！

5.普段からできる練習など

- では、始めていきましょう。

# 本ワークショップの構成

1.はじめに

2.メリハリのある音声表現：プロソディ  
学習の3つの原則

3.自身の研究紹介でチャレンジ

4.Q&Aも入れてみる

5.普段からできる練習は？

# 1. はじめに

- まずは、プレゼン英語の特徴を確認しましょう (icebreak) 。
  - ペアの方に以下のことを伝えてください。
  - お名前と専門分野、専門分野が何をするものなのかのさわりを紹介してみてください。
  - 1分で話してみましよう (×2) 。
- では、ご自身とペアのしゃべっていた表現で気づいたことを確認しましょう。

# 1. はじめに

- ペアワークから、プレゼン英語の特徴を確認
  - プレゼン英語は、書き言葉（論文の英語）と話し言葉の中間
  - Less formal, more listener-friendly, shorter, sentences (Wallwork, 2016)
  - 「主語はweやIやyouを使うことが多く、その一方で、動詞の選択においては、例えばgetという話し言葉ではなく、obtainやacquireといった書き言葉を選ぶ傾向にある」（野口・幸重, 2007 p.75)

# 1. はじめに

- プレゼンに至るプロセスのお話や表現集などについて
  - 発表の申込から、草稿・スライド等の準備、発表実行、質疑まで（野口・幸重, 2007）
  - アカデミックだけでなくビジネスプレゼンやTEDのようなプレゼンも含めてのプロセス全体（田中, 2014）
  - プレゼンのみならず、アカデミックフィールド全体で英語を使って過ごすにはどうするか（オンライン学習：東京大学 English Academia 1, 2と3 ←3ができています）
  - 英語で書かれたtips集（Wallwork, 2016）
  - その他、書籍等はたくさん出ています。

# 1. はじめに

- 「プレゼン原稿（スクリプト）を作って読む」から、「～を言う」・「～を発表する」へ
  - 音読（インプット）→朗読（アウトプット）（青谷, 2017）
    - 音読）自分の分からないところ分かる
    - 音読）自分の声に慣れることができる
    - 音読）正しい英語が頭と体に染み込む
    - 朗読）聞き手や状況に合わせた伝え方ができるようになる
    - 朗読）文章の意図や背景を正しく理解して伝えられるようになる
    - 朗読）表現力がつく
  - リハーサルの重要性（アンダーソン, 2016; 田中, 2014 他, ほぼ全て）→どんなスピーチ・プレゼン・演説も練習なしではない

# 1. はじめに

- 「プレゼン原稿（スクリプト）を作って読む」から、「～を言う」・「～を発表する」へ
- この段階を経る上で、音読・朗読の重要性を理解していただきたいと考えています。
- 本ワークショップでは、原稿を準備して、それを読む上で、どういうところに気を配れば相手に理解されやすい発表ができるか、を考えます。
- また、今回はもう一歩進めて、Q&Aもしてみましよう。
- それでは、どういうところに、どう気を配るかを考えていきましょう。

# 本ワークショップの構成

1.はじめに

2.メリハリのある音声表現：プロソディ  
学習の3つの原則

3.自身の研究紹介でチャレンジ

4.Q&Aも入れてみる

5.普段からできる練習は？

## 2.メリハリのある音声表現：プロソディ学習の3つの原則

- メリハリをつければいいのね， というところですが， もうちょっと， やってみましょう。
- **Part 1： Three Minute Thesis の実例を読んでみましょう。**
  - **protein /'prəʊtiːn/**
  - **chaperone /'ʃæpəreɪʊn/**
- もしスマホなどで音声を録音できる方はご自身の声を録音してみてください。

## 2.メリハリのある音声表現：プロソディ学習の3つの原則

- いかがでしたか？
- 今の読みで問題なし，素晴らしい！という方，お疲れ様でした。終わり！
- ...というのもなんなので，もうしばらくおつきあいくださいませ。
- 今の読みに，メリハリをつけることができればよりよいものになります。
- そのためには，英語のプロソディに目を向けていきましょう。

## 2.メリハリのある音声表現：プロソディ学習の3つの原則

- なぜ、プロソディに気を配るのでしょうか？
- 英語の発音には、子音や母音の分節音素と、アクセント・リズム・ストレス・イントネーションといった超分節音素（プロソディ）があります。
- もちろん両方うまくなることが理想ですが、「英語らしさ」を得るには、プロソディについて知って、練習するとよいとされています（Derwing and Rossiter, 2003）。
- では、どうすれば？

## 2.メリハリのある音声表現：プロソディ学習の3つの原則

- その際、「**プロソディ学習の3つの原則**」を枠組みとして提案しています。
- この原則を用いることの利点は以下の通りです。
  - プロソディ要素を相互関連した形で読むポイントを確認できる
  - 英語らしさを向上させることができる
  - これを参照して自学で確認ができる
- ではそれらの概要を確認することにしましょう！

# 「英語プロソディ学習の3つの原則」の概要

- 提案する「英語プロソディ学習の3つの原則」  
(配布資料p.2) とは...

1.母音のあるところに拍がくる

2.拍が2つ以上になれば、強弱を

3.強い拍が複数になれば、その内の一つを目立たせる

- 「自分で読む・言う際の行動指針」として活用  
してください

# 「英語プロソディ学習の3つの原則」の概要

- 各原則を簡単にみていきましょう
  - **原則① 「母音のあるところに拍がくる」**
  - 原則② 「拍が2つ以上になれば、強弱を」
  - 原則③ 「強い拍が複数になれば、その内の一つを目立たせる」

# 「英語プロソディ学習の3つの原則」の概要

- 原則① 「母音のあるところに拍がくる」

- この原則は、「音節」・「音節構造」のお話

- 音節 (syllable)

- 「リズムの1拍やひとつの強勢を受けることのできる、音の最小のまとまり (松坂, 1986, p. 165) 」

- 「母音を中心として前後に子音を伴う単位 (牧野, 2005, p. 27) 」

- 音節構造 (syllable structure)

- V, CV, CVC, VC の組み合わせ

- CCCVCCCC strengths



strike

ストライク



# 「英語プロソディ学習の3つの原則」の概要

- 原則① 「母音のあるところに拍がくる」
  - 「音節」・「音節構造」について、日本人英語学習者は何が問題？
    - CV構造が基本の日本語に、CCの子音連結を発することの困難さ。Vを挿入してしまう。
    - 挿入されたVが余分な拍となり、聴者の認識を妨げる。
  - ストレンクス strength ストライク strike
  - アルミニウム aluminum プロテイン protein
  - ご自身の専門領域や研究内容の専門用語では音のカタマリは  
どうなっていますか？

# 「英語プロソディ学習の3つの原則」の概要

## ●原則①の練習例

### 1. わざと変に言う（原則①・②）

- 日本語を英語っぽく言う・英語を日本語っぽく言うことで、各言語の音節・強勢・イントネーションの違いを体感する。
- 例) 岡崎体育の「冷蔵庫にはってあるやつを英語っぽく言う」（昔ならタモリの4カ国語マーじゃん?)

### 2. ハミング（原則①・②）

- 単語や文を鼻歌のようにハミングで読む。余計な母音が入ると拍数が増えてしまうので、拍数に注目する。強弱をつけるには強勢拍を長くする。

# 「英語プロソディ学習の3つの原則」の概要

- 各原則を簡単にみていきましょう
  - 原則① 「母音のあるところに拍がくる」
  - 原則② 「拍が2つ以上になれば、強弱を」
  - 原則③ 「強い拍が複数になれば、その内の一つを目立たせる」

# 「英語プロソディ学習の3つの原則」の概要

- 原則② 「拍が2つ以上になれば強弱をつける」
  - この原則は、「語強勢（語アクセント）」から「句アクセント」, 「リズム」を経て「文アクセント」のお話
  - 多音節語であれば、それぞれの音節が、第一アクセント, 第二アクセント, 弱アクセントのいずれかを担うことになる。(e.g. ba-NA-na, u-ni-VER-si-ty, PRO-tein)
  - 第一アクセントにおいて、ピッチの動きが**大きく, 長く, 強くなる**。(e.g. com-mu-ni-CA-tion)
  - 語が複数並ぶと、語と語の間で強弱の組み合わせができる。→ 「句アクセント」

# 「英語プロソディ学習の3つの原則」の概要

## • 原則② 「拍が2つ以上になれば強弱をつける」

- 句から文になった場合，文中のある語（の中の音節）は強いアクセントを受け，ある語は受けない。→ 「文アクセント」

en gi NEER      in the END      He can HEAR



- 主にアクセントを受ける語→内容語（名詞・動詞・形容詞・副詞）
- 受けない語→機能語

# 「英語プロソディ学習の3つの原則」の概要

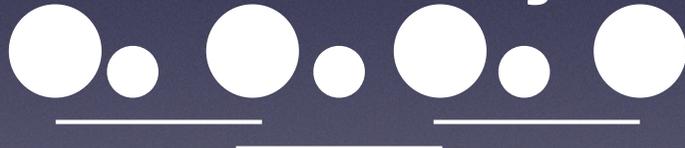
- 原則② 「拍が2つ以上になれば強弱をつける」

- 文中に強弱の組み合わせができる→ 「リズム」

- What comes to mind when you hear the word “protein”?



- Eenie, meenie, miney, moe.



- examinee → in case of rain → I tried to study very hard.

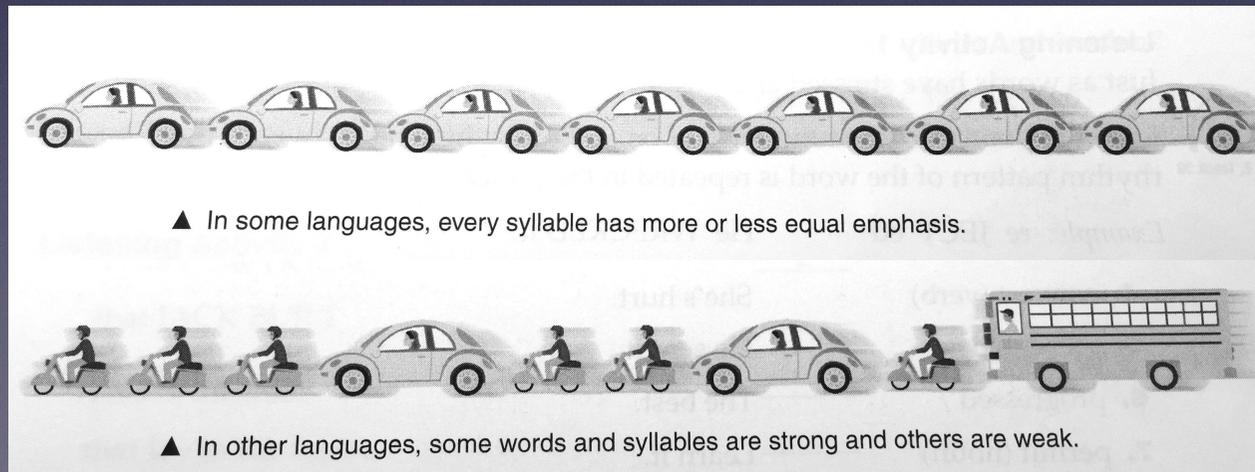


(齋藤, 2008, p.33; 竹林・清水・齋藤, 2013, p.136-137)

# 「英語プロソディ学習の3つの原則」の概要

## • 原則② 「拍が2つ以上になれば強弱をつける」

- 「語・句アクセント」・「リズム」・「文アクセント」について、日本人英語学習者は何が問題？
- 「語アクセント」において、強く発音するようにと教えられていることが多く、高さや長さについては十分に注意を払うことができていない。
- アクセントに等時性のある英語において、モーラに等時性のある日本語の影響を持ち込んでしまう。（英語に日本語のリズムを持ち込む）



# 「英語プロソディ学習の3つの原則」の概要

- 各原則を簡単にみていきましょう
  - 原則① 「母音のあるところに拍がくる」
  - 原則② 「拍が2つ以上になれば、強弱を」
  - 原則③ 「強い拍が複数になれば、その内の一つを目立たせる」

## 「英語プロソディ学習の3つの原則」の概要

- 原則③ 「強い拍が複数になれば、その内の一つを目立たせる」

- この原則は、「thought group」・  
「音調核（とその配置）」・「トーン」  
のお話 → **区切りとその中の目立ち**  
**とそこでの音の高低の動き**

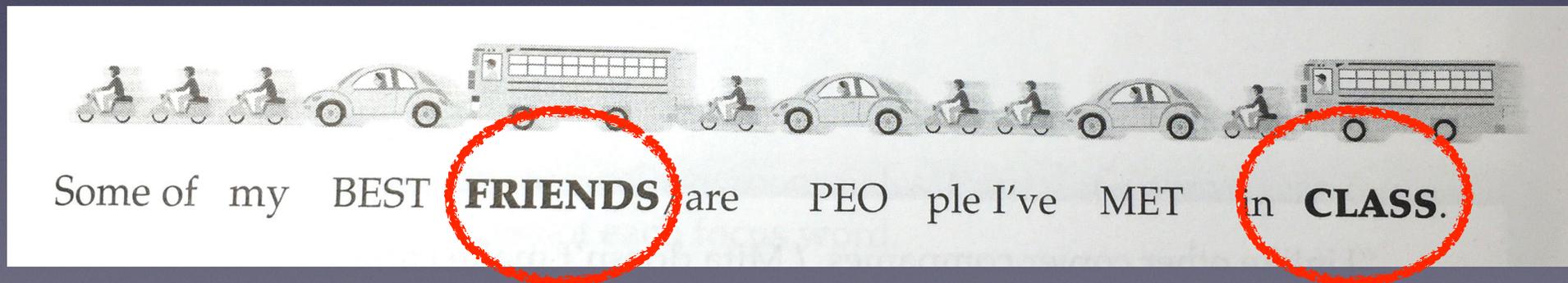
- 語・句・文アクセントを受け、リズムを形成した発話に更に情報が加わる。

# 「英語プロソディ学習の3つの原則」の概要

- 原則③ 「強い拍が複数になれば、その内の一つを目立たせる」
  - 文アクセントやリズムにおいて、強アクセントを受ける語・音節があることは明らかになっている。
  - 一連の発話は、短い文や節などをひとかたまりと区切ることができる。この区切りのことを、「*thought group*」という。
  - */What comes to MIND /when you hear the word “PROtein”?/*

# 「英語プロソディ学習の3つの原則」の概要

- 原則③ 「強い拍が複数になれば、その内の一つを目立たせる」
  - 区切りの中に含まれる第一アクセントを含む語群の中でも、最後に現れるものが最も目立つ傾向にある。
  - 目立たせる方法は、その音節においてピッチを大きく変動させること（音調核）。
  - ピッチの変動には、上下とその組み合わせと平坦が主なもの。



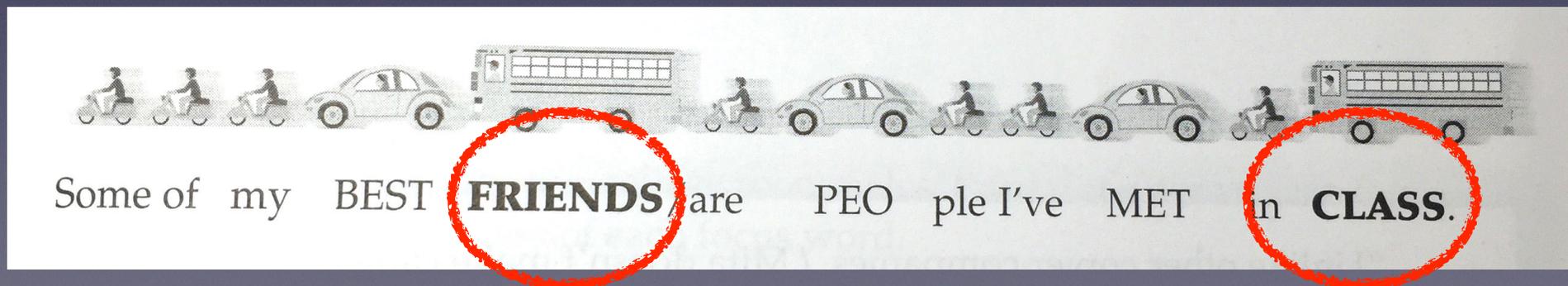
(Grant, 2010, p.103)

# 「英語プロソディ学習の3つの原則」の概要

- 原則③「強い拍が複数になれば、その内の一つを目立たせる」
  - この領域において、日本人英語学習者は何が問題？
  - 目立ちの配置（核配置）を誤りがちである。多くの場合、*thought group*の冒頭に置きがち（特に原稿音読時）。これによる情報の焦点の誤解が生じる可能性がある。
  - ピッチの動きについて、句末の急激な変動で意図を伝達しようとする傾向に。

# 「英語プロソディ学習の3つの原則」の概要

- ここで「3つの原則」を振り返ってみると...
- 語・句・文と範囲が広範になっても、アクセントの配置など、内部構造は本質的には変わらない。
  - 「英語の『一点豪華主義』的な発音」 (町田, 2017)
  - 「日本語はたんたん, 英語はメリハ〜リ」 (静, 2019)
- ここが日本語とは大きく異なるところ。



(Grant, 2010, p.103)

# 「英語プロソディ学習の3つの原則」の概要

- ここまで見てきた、「3つの原則」ですが、p.1に戻って、3MTの英語で、この枠組みを適用させてみましょう。
- 英文を見返してみても...
  - どの単語が言いにくいですか？単語の拍数・強弱をチェック（原則1・2）
  - その文、どのように区切れますか？（原則2）
  - その区切りの中の、どこが目立ちますか？上げますか下げますか？（原則3）

# 「英語プロソディ学習の3つの原則」の概要

**/WHAT COMES to MIND/ WHEN you HEAR the WORD “PROtein”?/**

**/SOME of us here would PRObably be THINKing about FOOD./**

**/But there are SO much MORE to PROtein./**

**/In FACT,/ we are all MADE out of PROteins./**

**/We are LIFE/ because our PROteins are WORKing HARD/ but our  
PROteins can only WORK/ if they are FOLDed into the CORRECT  
SHAPE./**

- では、今の分析を踏まえて、もう一度読んでみましょう。ペアで互いに読み合ってみましょう。メリハリが効いているかどうか、確認し合ってください。

## 「英語プロソディ学習の3つの原則」の概要

- いかがでしたか？
- 原稿を準備しても、それをどのように読むことで英語らしくなることが分かっていただけなのではないでしょうか。
- 音読から朗読に近づいていくことになります。
- では、もう少しご自身のところに寄せていきましょう。

# 本ワークショップの構成

1.はじめに

2.メリハリのある音声表現：プロソディ  
学習の3つの原則

3.自身の研究紹介でチャレンジ

4.Q&Aも入れてみる

5.普段からできる練習は？

### 3. 自身の研究紹介でチャレンジ

- タスク2： 1 min presentationをやってみる
  - お題 「自身の研究の概要を1分程度で説明しよう。」
  - 1) 原稿を作成する（4分～5分）
    - 先ほどの「プロソディ学習の3つの原則」を念頭に、原稿をどう読むかを検討してください。
    - ぶつぶつと読みながらで結構です。
    - どのように読むとlistener friendlyになるか、を考えてください。

### 3. 自身の研究紹介でチャレンジ

- タスク2： 1 min presentationをやってみる
  - お題 「自身の研究の概要を1分程度で説明しよう。」
  - 2) 原稿の読み方を考える (2分~3分)
    - 自分の研究の概要を1分程度で説明してください。
    - 聞き手は非専門家であることを念頭に置いて説明してください。
    - 専門用語があれば、それを簡単に言い換えてみたり、たとえてみて、理解されるよう試みてください。

### 3. 自身の研究紹介でチャレンジ

- タスク2： 1 min presentationをやってみる
  - お題「自身の研究の概要を1分程度で説明しよう。」
  - 2) ペアで発表を実践する (1min × 2 回)
    - ペアの人が当該の学部生であると見立て、発表しましょう。
    - 相方はメモを取りながら聞きましょう。
    - スマホなどで録音・録画できる人はそれも是非。
    - ここは一方向で、聞き手は、発表後に日本語でコメント・フィードバックをして下さい。

### 3. 自身の研究紹介でチャレンジ

- タスク2： 1 min presentationをやってみる
  - お題 「自身の研究の概要を1分程度で説明しよう。」
- 3) 振り返り (3分)
  - お互いに、ペアの人と振り返りをしましょう。
  - 原稿の書き込みをお互いに見せ合いつつ、どう読んでいたか、メリハリをつけることができていたか、よりよくするためにはどう読めば良かったか、などについて、確認しましょう。
  - 音声を録音している人はそれを確認しても結構です。

# 本ワークショップの構成

1.はじめに

2.メリハリのある音声表現：プロソディ  
学習の3つの原則

3.自身の研究紹介でチャレンジ

4.Q&Aも入れてみる

5.普段からできる練習は？

## 4. Q&Aも入れてみる

- Q&Aの表現について
  - 発表が終わると、質疑が待っています。その際、概ね流れは決まっていますので、それに応じて返答をします。
  - 「質問の意図の確認」は結構便利です。
    - p.5 参考資料 A カテゴリー
    - 別紙 参考資料 C Wallwork (2016) の表現集より
    - 別紙 参考資料 D 野口・幸重 (2007) の表現集より

## 4. Q&Aも入れてみる

- タスク3： 1 min presentationへのQ&A
  - お題 「ペアの発表への質疑応答をしよう。」
  - 1) ペアの発表について質問を考える (3分)
    - ペアと原稿を入れ替えて読み, その人に何が質問できるかを考えましょう。
    - 門外漢であるのは承知の上です。理論の背景・原理, 調査・実験の理由, データの信憑性や, 正直に何を言ってるのか分からない, というところまで, 尋ねてみましょう。(表現は参考資料を参照)

## 4. Q&Aも入れてみる

- タスク3： 1 min presentationへのQ&A
  - お題 「ペアの発表への質疑応答をしよう。」
  - 2) ペアの質問を予想し，回答を考える・表現をチェックする（3分）
    - ペアが何を尋ねてくるかを予想し，回答を考えましょう。
    - 質問が分からない場合・確認したい場合，それを素直に言いましょう。
    - 回答についても，参考資料を参照してください。

## 4. Q&Aも入れてみる

- タスク3： 1 min presentationへのQ&A
  - お題 「ペアの発表への質疑応答をしよう。」
  - 2) ペアの質問を予想し， 回答を考える・表現をチェックする（3分）
    - ペアが何を尋ねてくるかを予想し， 回答を考えましょう。
    - 質問が分からない場合・確認したい場合， それを素直に言いましょう。
    - 回答についても， 参考資料を参照してください。

## 4. Q&Aも入れてみる

- タスク3： 1 min presentationへのQ&A
  - お題 「ペアの発表への質疑応答をしよう。」
  - 3) 振り返り (3分)
    - お互いに、ペアの人と振り返りをしましょう。
    - 何を尋ね、それに対する (一定の満足のいく) 回答が得られたか、確認しましょう。
    - また、質疑の際の英語のプロソディはどうだったか (!) , 思い返してみましょう。

# 本ワークショップの構成

1.はじめに

2.メリハリのある音声表現：プロソディ  
学習の3つの原則

3.自身の研究紹介でチャレンジ

4.Q&Aも入れてみる

5.普段からできる練習は？

## 5. 普段からできる練習は？

1. 今回の「3つの原則」を使って、スクリプトを作ったら考えて、それをリハーサルする。←今

ココ

2. 分かりやすく言い換えるために... “Mystery Words” の練習

3. とにかくペアでしゃべるために... “One Minute Chat” の練習

4. 図表を描写するために... “写真で1分” の練習

## 5. 普段からできる練習は？

1. 今回の「3つの原則」を使って、スクリプトを作ったら考えて、それをリハーサルする。

2. 分かりやすく言い換えるために... “Mystery Words” の練習 ← これもある

3. とにかくペアでしゃべるために... “One Minute Chat” の練習 ← これもある

4. 図表を描写するために... “写真で1分” の練習  
← これもある

5. 普段からできる練習は？

***Mystery Words***

## 5. 普段からできる練習は？

- **Mystery Words** (普段の授業だとこんな感じですよ)
  - paraphrasing activity with your partner
  - 制限時間内に説明が相手に伝われば着席
  - avoid 固有名詞
  - avoid gestures
- 自分の成長のバロメータとして。

5. 普段からできる練習は？

# **presentation**

- 上の英語を自分の言葉で  
*paraphrase*すると？

## 5. 普段からできる練習は？

# presentation

- 英英辞書だとこんな定義で説明されています。
- presentation ... is “the act of showing something or of giving something to somebody.” (Oxford Learners’ Dictionary)
- presentation ... is “an activity in which someone shows, describes, or explains something to a group of people.” (Merriam Webster Learner’s Dictionary)

## 5. 普段からできる練習は？

**protein**

- 上の英語を自分の言葉で  
*paraphrase*すると？

## 5. 普段からできる練習は？

# protein

- 英英辞書だとこんな定義で説明されています。
- protein... is “a substance, found within all living things, that forms the structure of muscles, organs, etc. There are many different proteins and they are an essential part of what humans and animals eat to help them grow and stay healthy.” (Oxford Learners’ Dictionary)

5. 普段からできる練習は？

***One Minute Chat***

## 5. 普段からできる練習は？

### • One Minute Chat

- ペアによる対話活動
- 1分間ペアであるトピックについて話し続ける活動
- 消しゴムか何かをターンテイキングの印に使って（できるだけたくさんターンを取るように）
- あとで、何が言えて、どうすればより良かったか、などを振り返る

## 5. 普段からできる練習は？

### **Today's Topic:**

**What would you do  
if you became completely  
invisible for one day?**

とにかく簡単な話題で、1分がんばろう

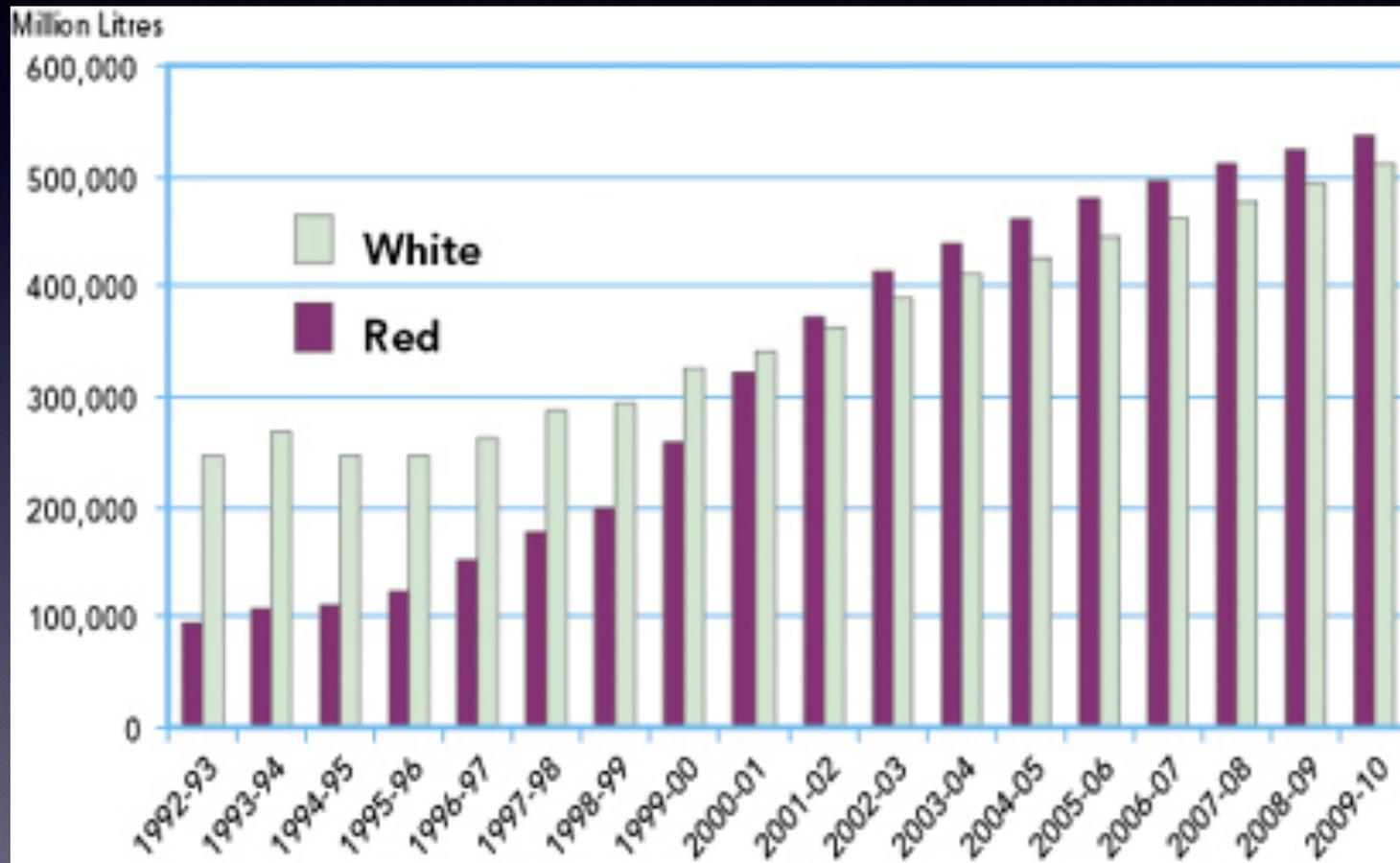
## 5. 普段からできる練習は？

### • 写真で1分 (IPPON GRAND PRIX的な)

- 写真として出されるデータについて
- 想像力を膨らませつつ1分間描写する活動
- あとで、何が言えて、どうすればより良かったか、などを振り返る
- あるいはペアで、質問者からスタートして、発表者はそれに回答する

## 5. 普段からできる練習は？

# 写真で1分



<https://goo.gl/images/cfERmm>

タイトル・内容は想像で

## 5. 普段からできる練習は？

# 写真で1分



<https://goo.gl/images/a7cbsh>

タイトル・内容は想像で

## 5. 普段からできる練習は？

- 言い換え練習としての“Mystery Words”，ターン数を多くとるための“One Minute Chat”，図表の描写を練習するための“写真で1分”の3つを紹介しました。
- 1つ目は，専門用語や概念などを分かりやすく言い換える練習として，さまざまな単語で試すことができます。
- 2つ目は，質疑やポスタープレゼンなど，即興性が求められる場での瞬発力の養成として練習を行うことができます。
- 3つ目は，図表の描写，などはスライドを説明する際に必要となりますので，その表現を定着させるために練習できます。
- 是非，日々の取組みの中に取り入れてもらえればと思います。

# まとめ

- 今回のワークショップを通じて、参加者の皆さんにと、以下のことを共有したつもりです。
  - 最初の一歩として原稿を準備して、プロソディに気をつけて読むと、聞き手に分かりやすくなることを体験してもらおうべく、説明を行い、実践しました。
  - また、質疑の練習も簡単ですが行いました。
  - そして、普段の練習はどんなことが良いか、いくつか提案しました。
- いかがでしたでしょうか。

# まとめ

- 終わった現在、皆さんが、プレゼンテーションの準備をしている際に、
  - 準備をした原稿を見て、
  - どのように読むと、内容が聞き手にきちんと伝わるのか、
  - どのような練習をすればよいのか、
  - その他にどんな練習ができるか、
- を分かってもらっていて、実際、そのようにしてもらえるとありがたいです。
- どこかで発表やポスターを行った際には、その結果などをフィードバックして下さると、こちらとしては更にありがたいです。
- ご意見・疑問等ございましたら、ご遠慮なくお尋ね下さいませ。